

2023年6月12日
株式会社東陽テクニカ

**超高速大容量ネットワークパフォーマンステスター
「Spirent A2 400G アプライアンス」を
「Interop Tokyo 2023」で日本初披露
～1台に400GbE QSFP-DD 16ポートを搭載し、
ライブデモンストレーションを実施～**

株式会社東陽テクニカ(本社：東京都中央区、代表取締役社長：高野 俊也、以下 東陽テクニカ)は、Spirent Communications Inc.(本社：米国カリフォルニア州サンノゼ、以下 Spirent 社)製の次世代ネットワークパフォーマンステスター「Spirent TestCenter」の最新モデル「Spirent A2 400G アプライアンス」を、2023年6月14日(水)より幕張メッセで開催される「Interop Tokyo 2023(<https://www.interop.jp/>)」にて日本国内で初めて動態展示いたします。400GbE (ギガビットイーサネット) を最大 16 ポート搭載するパフォーマンステスターで、超長距離伝送技術として注目を集める「OpenZR+^{※1}」規格の QSFP-DD^{※2} 光トランシーバと接続したライブデモンストレーションを行います。普及が進む 400GbE 技術、さらにその先の Beyond 400GbE 技術の最先端をお伝えいたします。尚、「Interop Tokyo 2023」において、Best of Show Award ファイナリストとして選出されています。



「Spirent A2 400G アプライアンス」

【背景／概要】

世界のインターネットトラフィック(通信量)は、DX(デジタルトランスフォーメーション)による多様な通信、5G の高速モバイル通信などにより、今後もさらに増加すると予測されます。日本のサービスプロバイダーのコアネットワークにおいて、10GbE 回線や 100GbE 回線を中心とした設計は容量限界を迎え、かつ回線を束ねる追加コストも生じることから、より低コストで大量トラフィックに対応できる 400GbE 回線の普及が進んでいます。ネットワーク装置のベンダーにおいても、400GbE 対応装置が主要各社から既に販売されており、400GbE ポートを大量に搭載する装置も登場しました。また、400GbE の伝送方式は、伝送距離やレーン数によってさまざまな規格が存在し、400GbE の導入エリアに応じて最適な規格を選ぶ必要があります。

「Spirent A2 400G アプライアンス」は、400GbE における Spirent 社製 5 世代目のハードウェアで、2023 年 1 月に国内での販売を開始しました。高さ 2U のサイズで 400GbE QSFP-DD を最大 16 ポート搭載する、コストパフォーマンスに優れたイーサネットパフォーマンステスターです。大量の 400GbE ポートの一斉試験が可能

で、異なる内容の 400GbE 試験を並行で実施することもできます。400GbE 以外の複数のスピード(PAM4 変調、NRZ 変調)に切り替えて、異なるスピードを組み合わせた試験も実現可能です。また、QSFP-DD 光トランシーバを挿し替えることで、400GbE のあらゆる規格の試験に対応します。従来モデルにあるプロトコルエミュレーション機能、試験自動化機能を受け継ぎながら、超高速化、超高密度化を実現しました。

「Interop Tokyo 2023」のブース展示においては、注目を浴びている超長距離伝送規格「OpenZR+」の QSFP-DD 光トランシーバを装着してライブデモンストレーションを行います。

東陽テクニカは、Spirent 社のパフォーマンスステスターの国内展開を通して、ネットワークインフラの安定性向上、リリース期間短縮を実現し、日本のインターネット技術の発展に貢献してまいります。

※1 OpenZR+ MSA (Multi-Source Agreement) が策定した、小型フォームファクタプラグブルモジュールでの長距離伝送規格。

<https://openzrplus.org/>

※2 Quad Small Form Factor Pluggable Double Density. 高速ネットワーキングおよびデータセンターアプリケーションで使用される光通信モジュールの規格。

【 主な特長 】

- 1 台に 400GbE QSFP-DD を最大 16 ポート搭載したコストエフェクティブモデル。同社の従来モデルより 400GbE ポート単価を最大 80%程度低減。
- 最大 6.4Tbps のテストトラフィックを一斉に送受信可能。
- 長距離伝送規格である 400GBASE-ZR/ZR+ (OpenZR+) の光トランシーバを装着可能。
- 最大 255 台のスタック接続に対応し、400GbE 最大 4,080 ポートを時刻同期しながら制御可能。
- 400GbE 以外の複数のスピードにも対応。(PAM4 変調方式：400G/200G/100G/50G、NRZ 変調方式：200G/100G/50G/40G/25G/10G)
- ブレークアウト接続に対応。(例：QSFP-DD を 100G 4 ポートにブレークアウトさせ、QSFP-DD 16 ポートを 100GbE 64 ポートとして利用)
- 「TestCenter」他モデルとの接続により、800GbE テスターや仮想/クラウド/コンテナ版テスターとも連携可能。
- 長時間試験や繰り返し試験に有用な自動化機能、API 機能を標準で搭載。
- プロトコルエミュレーション機能を有し、テストトラフィックを送受信しながら同じポートでプロトコル試験が可能。(BGP/OSPF/ISIS、MPLS、Segment Routing、VXLAN、EVPN、PCEP、LAG など)
- 1 台の消費電力が最大 2400W。1 ポート当たり最大 150W で、プロトコルエミュレーション機能を有するテスターの中で最小レベル。
- 製品のハンズオントレーニング(オンライン)を無償開催。

【 「Interop Tokyo 2023」出展概要 】

- ◆開 催 展 名：Interop Tokyo 2023
- ◆会 期：6 月 14 日(水)～6 月 16 日(金) 10:00～18:00 ※最終日のみ 17:00 まで
- ◆会 場：幕張メッセ(国際展示場)
- ◆ブ ー ス 番 号：5 P04(東陽テクニカ/Spirent Communications ブース)
- ◆出展製品詳細：https://www.toyo.co.jp/ict/seminar/detail/Interop_Tokyo2023.html

<Spirent Communications Inc.について>

Spirent 社は、米国カリフォルニア州サンノゼに本社を構える測定器メーカーです。IT・通信業で用いられる最新の技術、インフラストラクチャ、アプリケーションを評価するための先進的な測定器、測定手法を開発・提供しています。そのソリューションは研究開発ラボおよび通信事業者、通信機器メーカー、企業の IT 部門など全世界で幅広く使用され、業界のリーディングカンパニーとして長年にわたり通信事業の品質向上に貢献しています。同社のソリューションによって、400G イーサネット、5G、LTE、無線 LAN、衛星通信、NFV、クラウド、IoT、M2M、ネットワークセキュリティなど、IT・通信に関わるあらゆる観点での性能・品質確認が可能になります。東陽テクニカは同社の日本国内の代理店です。

Spirent Communications Inc. Web サイト : <https://www.spirent.com/>

<株式会社東陽テクニカについて>

東陽テクニカは、1953 年の創立以来、最先端の“はかる”技術のリーディングカンパニーとして、技術革新に貢献してまいりました。その事業分野は、情報通信、自動車、エネルギー、EMC（電磁環境両立性）、海洋、ソフトウェア開発、ライフサイエンス、セキュリティなど多岐にわたります。5G 通信の普及、クリーンエネルギーや自動運転車の開発などトレンド分野への最新の技術提供に加え、独自の計測技術を生かした自社製品開発にも注力し、国内外で事業を拡大しています。最新ソリューションの提供を通して、安全で環境にやさしい社会づくりと産業界の発展に貢献してまいります。

株式会社東陽テクニカ Web サイト : <https://www.toyo.co.jp/>

★ 本件に関するお問い合わせ先 ★

株式会社東陽テクニカ 経営企画部マーケティング課
TEL : 03-3279-0771(代表) / E-mail : marketing_pr@toyo.co.jp
製品ページ : <https://www.toyo.co.jp/ict/products/detail/testcenter.html>

※本ニュースリリースに記載されている内容は、発表日現在の情報です。製品情報、サービス内容、お問い合わせ先など、予告なく変更する可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

※記載されている会社名および製品名などは、各社の商標または登録商標です。